

翠風園

ひかり通信

第14号



発行月： 令和2年11月
制作・発行： 社会福祉法人 正瑛会
 デイサービスセンター 翠風園
 ヘルパーステーション 翠風園
 グループホーム 翠風園
 居宅介護支援事業所 翠風園
 理事長 野水 清志

所在地： 〒950-1236
 新潟市南区高井東2丁目13番33号

連絡先： 025-362-7600

ホームページ：<http://www.suifuuen.jp/>



ご挨拶

施設長 寺崎 正則



日頃より社会福祉法人正瑛会の事業ならびに活動に対してご理解とご協力を戴き誠に有り難うございます。

今年の春からはじまった新型コロナウイルス感染症の影響により、私達の生活様式は大きく変わりましたが、介護の仕事に関わらせて戴いている私達が特に影響を受けましたのは消毒衛生用品が入手できなくなってしまう事でした。マスクや消毒薬が手に入らなければ利用者様は勿論、職員を守る事もできないからです。

ところが当法人では、毎日の様に「マスクや消毒薬は足りていますか」とのご心配のお電話を戴き、中には直接、園に届けに来て下さった方もおられ、あんなに入手が困難だったマスクや消毒薬は、緊急事態宣言が発令される何カ月も前にはしっかりと揃えられていたのです。

この様に万全の体制で利用者の方の皆様をお迎えする事ができ、今日までに正瑛会が運営する全ての事業所において新型コロナウイルスに感染した方は一人もおられませんでした。

これもひとえに日頃から正瑛会を応援して下さいました皆様のお蔭と、心より感謝を申し上げます。有り難うございます。

私達職員は、新型コロナウイルスと共に生きる新しい生活様式の中で気付く事が沢山ありました。あらためて正瑛会を応援して下さいますが、こんなにも大勢いて下さるといふ事実に驚くと共に、有り難さで胸がいっぱいになりました。

新型コロナウイルス感染症は、今もなお世界中に広がっておりますが、その様な中であっても翠風園をご利用下さいます皆様方が心豊かにお過ごし戴けますように職員一同、報恩と感謝の想いを持ち、真心を込めてお世話をさせていただきます。どうかこれからも変わらぬご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

デイサービスセンター グループホーム



新型コロナウイルス から習った事

今年、新型コロナウイルスが発生しました。今もなお世界中で感染拡大が広まり、かつて味わったことが無いような、大変な時代の真っ只中です。

テレビをつけければ、朝から晩まで感染状況のニュースで溢れかえっています。

当初は、デイサービスにおいても、利用者様が「どうしてこんな事になったのか」「怖い思いは沢山してきたけれど、こんな体験初めてだ」と、口ぐちに仰っていました。

それから数か月経ち、デイサービスもお休みすることなく利用者様をお迎えする事が出来、多くの利用者様から、今日も翠風園にいられて良かったと、しみじみと言って戴く機会が増えました。

そして、「世の中大変だけれど、当たり前だと思っていた日常が、実は有り難いことだったと気付くことも出来て、悪い事ばかりじゃないかもしれないね。」等、利用者様のお話も、少しずつ変化していかれました。



ちょうどその頃、翠風園では、今年の感謝祭のテーマを考えている時期でした。

今迄は、地球様への感謝や、育てて戴いた事への感謝など、毎年テーマを決めて感謝祭を行って参りました。

しかし、今年はコロナウイルスの中で生活しておりますので、今迄の感謝祭に変わるものとして、今年は行事として、利用者様と共に考えたことを基に、「コロナウイルスから習った事」をテーマに致しました。

いざ、テーマは決まったものの、初めは「どうやって考えれば良いか分からない」と言われる利用者様もいらっしゃるかもしれないと思いました。

けれど、利用者様からお話を伺っていく内に、多方面からの気付きや、感謝に変えていかれる考え方をお聞きし、私達職員も大変感化されました。

初めは、コロナウイルスに対してマイナスの想いが多かった私達でしたが、現在デイサービスではご利用人数も増え、施設内は利用者様と職員の笑顔と活気に溢れています。

またその状況は、他の事業所でも同様で、翠風園全体が活性化しているように感じられます。

次のページでは、**行事として行った「コロナウイルスから習った事」**について、**利用者様がお話し下さいました、内容をご紹介致します。**

デイサービス 九十七歳 女性

百年近くも生きて、色々と経験しましたが、

コロナウイルスの様な事は初めてです。

この度、医療従事者や専門家の方が頑張っ
て下さっています。
自分の生活自体は、変わりなく過ごす事が出来、
本当に有り難いと思います。

デイサービス 八十八歳 女性

コロナウイルスの流行は、悪い事だと思ってい
ましたが、そのお蔭で、今まで出来ていた普通
の事が、有り難かったと気付くことが出来まし
た。有り難うございました。

デイサービス 八十九歳 女性

人が大勢集まる場所には行かずに、自分が一歩
引いた行動をとるように心掛けています。
良く考えた行動をとるようになりました。有り
難うございます。

デイサービス 八十六歳 女性

コロナウイルスが流行っていますが、翠風園に
来て、お風呂に入れてもらい、友達と同じ飲み
物を頼んだり、変わらずに過ごせて嬉しいで
す。



デイサービス 八十二歳 男性

コロナウイルスが出たお蔭で、人間が今まで
忘れていた事、大切なものは何かを考え直さ
ないといけない事が分かりました。

考える切っ掛けを下さきり、有り難うございま
す。

デイサービス 八十一歳 女性

コロナウイルスが流行して、あまり外出でき
ない中、周りの人が「翠風園に行くといいよ
」と言ってくれて、こうして翠風園に来ること
ができました。大変有り難いと思っています。

グループホーム 八十八歳 女性

コロナウイルスが広がり、県外に居る家族と
会えなくなりました。電話で声を聞いても
会えないと寂しいです。

今まで、普通に会える事が有り難い事でした。
でも家族から手紙をもらい嬉しかったです。
みんなが元気に過ごせるよう望んでいます。



*今年八月に行った「コロナウイルスから習った事」の行事で、利用者様、職員が共に考えました内容を基にして、左記の文章を作成しました。行事当日は、文章と映像と組み合わせたスライドを上映しました。

「新型コロナウイルスから習った事」

今や世界中で、知らない人はいないと思われる、新型コロナウイルスの存在。世界中で感染拡大が広まる中、社会では経済活動がストップし、大規模なイベントの自粛、学校の一斉休校等、様々な措置がとられるようになりました。それにより、今まで当たり前前だと思っていた生活が、大きく変化して行きました。

長期化する世界中の感染拡大。この中で新型コロナウイルスを「敵」とみるのではなく、私達に教えてくれた事は何なのかを、利用者様と共に考えてみました。

・今まで普通に過ごしてきた日常の全てが「当たり前」ではなく「有り難い」ことだったと気が付きました。

・我が身を顧みず強い使命感で力を尽くす、医療従事者の方々の強さと優しさに、人間の尊さと素晴らしさを感じました。人間の持つ「使命感」を引き出して下さいました。

・人々の外出自粛により、きれいな自然が戻り、生き物が元気を取り戻しました。こんなにも、人間が自然を害していたのだと気付きました。

・退屈だとか、毎日同じ事の繰り返しとか、不満ばかり言っていたけれど、当たり前前の毎日、何気ない日常こそが幸せだったと気付きました。





・新型コロナウィルスは、大きな価値の転換をしてくれました。今の生活でいいの？と、多くの疑問と質問を投げかけてくれました。娯楽、スポーツ、ライブ、旅行、人が集まり大騒ぎする事が何よりも楽しいこと？と。

デイサービスも多くの人が集まるため、利用の自粛が呼びかけられた所もありました。しかし翠風園では全ての事業所において、お休みすることなく、平常通りの営業を続ける事が出来ました。

利用者の皆様が、感染を心配して、お休みされるかもしれない状況の中、皆様は翠風園を信じて、ご利用を続けて下さいました。更に驚いたことは、今年の同時期よりも、ずっと多くの利用者様にご利用下さっていた事でした。

日本に感染が広まり始めたころ、正瑛会に御縁のある多くの方々から、いち早く多くのマスクや消毒薬の支援を戴き、町中の店からマスクが消えた時も、翠風園では潤沢な準備をして、感染防止に努める事が出来ました。

このような時期に、昨年より多くのご利用者が増えた事、又いち早く感染防止の道具が揃えられた事、更に関係者に一人の感染者も出なかった事、これが何を意味するのか私達は考えました。そして、ある一つの確信に辿り着きました。

翠風園では毎年ご利用者の皆様と共に、多くの感謝祭を行って参りました。その感謝祭では、利用者の方々の皆様の、尊い経験の中から紡ぎ出された、深い感謝の想いが積み重ねられて行きました。利用者様の深い感謝の想いは、職員の方にも強く伝わり、利用者様と職員で共に作り上げた、愛と感謝の空間が翠風園の中に育っていきました。

私達が愛と感謝のエネルギーについて、お聞きした話を思い出しました。そこには、「愛と感謝が身に付けば、自分の目的を通す力となる。そしてどんな状況でも切り抜けていく力となり、危険なものは避けて通る。そのような力が愛と感謝のエネルギーにはあるのです」という事でした。



この度、新型コロナウイルスの蔓延する中で、皆様と共に無事でここに居られることは、皆様と共に作り上げた愛と感謝の空間が、私達を包んで守って下さった証だと確信しました。

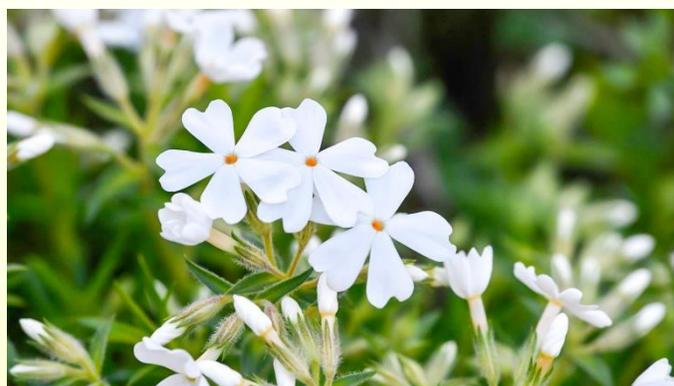
一方で、仕事を失った多くの方達もいて、生活が成り立たず辛く苦しい時を過ごされています。そんな中だからこそ、新型コロナウイルスに気付かせてもらった、日常の尊さ、当たり前と思う事への感謝の思いが湧いてきます。不満を募らせるのでは無く、辛さと苦しさの中から感謝を見つけられたら、それがどんなに自分の心を豊かにしてくれることでしょう。

私達にとって幸せとは何か、本当に大切なものは何でしょうか。どこかに求めるのではなく、外側を飾るのでもなく、私達の中にある愛と感謝の想いを一人でも多くの方に広げ、育てて行きたいと思えました。不満や辛さや苦しさの中に「愛と感謝の種」を見つけられたら、きっと人生が変わってきます。

新型コロナウイルスから気付かせて戴いた様々な感謝を、再認識しながら生活をしていきます。苦しんでいる人、困っている人が居たら、助け合い、手をさしのべ、想いを送って行きます。どのような存在に対しても、感謝の種を見つけ、どの様な状況の時でも、常に感謝を忘れずに生きていきます。

また私達が新型コロナウイルスから習うべき大切な一つは、その強い感染力です。私達はこの度気付かせて戴いた「愛と感謝の威力」を、自分の足元の職場や家庭に、そして自分の周りの人々に、信念を持って感染させて行きたいと思えます。そして、新型コロナウイルスとも共存し、習うべきものを見つけながら、成長していきたいと思えます。

私達に大きな気付きを与えて下さり、大切なお役目をして下さった新型コロナウイルスに、心からの愛と感謝の想いをお送りしたいと思います。



グループホームより

グループホームでは、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、春頃から面会制限をせざるを得ない状況となりました。

そこで、利用者様のご家族に少しでも安心して戴けるように、定期的に発行している「グループホームだより」を活用し、利用者様のとびっきりの笑顔を集めた写真集をご家族にお送り致しました。

後日、ご家族から御礼のお手紙やハガキが届き、とても嬉しかったものですから、一部ですが下記に掲載させて頂き戴きます。皆様、本当に有り難うございました。

また、新型コロナウイルスに関しての知識と理解を深めるべく、職員も勉強しながら利用者様にお伝えするように努めています。

或る利用者様が、「家族に会えないのは、コロナウイルスだからなんだね。淋しいけれど、私は元気でここに居るから、家族に安心して欲しい」と、ご自分の事より離れているご家族を心配されていました。

現在も、感染状況をふまえて、面会制限をさせて頂いていたり緩和したりと変化しますが、十月からZOOMを利用してのリモート面会を取り入れる事となりました。

インターネット接続が可能であれば、遠方からでも、画面を通して顔を合わせながらお話し戴けます。

新しい可能性を見出しながら、利用者様、ご家族の皆様安心して戴けるよう、これからも努めて参りたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



前略

お手紙ありがとうございます。職員の皆様、日々お忙しい中、このような事までしていただき、本当に感謝申し上げます。

また、ポストカードまで入れていただき、早速姉に送り知らせました。

お手紙から、母の生活の一端が目に見え、変わらない様子にホッとさせられました。

元気でいてくれれば、何も望むことはありません。早くコロナが収まり、会いにいける日を楽しみにしております。どうぞ母のこと宜しくお願い致します。

かしこ

前略

いつも母が大変お世話になっており、ありがとうございます。ございます。こんなに長く会わない事がなかったので、どうしているかな? と思っていた処に、元氣そうな笑顔の写真を送っていただき、本当にありがとうございます。ございました。

いつも良くしていただいていたので、心配することもなかったのですが、やはり会えないと何か気持ち落ち着きません。コロナウイルスが一日でも早く終息し、会いに行ける事を祈っています。

それまで職員の皆様、よろしく願い致します。

かしこ



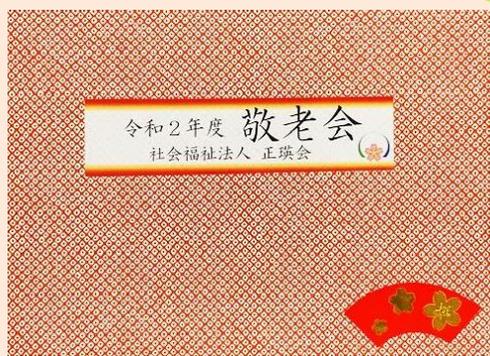
心に残った出来事

デイサービスセンターでは、九月に敬老会を行いました。敬老のお祝いとしまして、利用者様お一人おひとりに記念状をお渡しし、表彰させて戴きましたところ、御礼の言葉が寄せられました。

ある利用者様のご家族から、「今日、デイサービスから帰ってきたら、嬉しそうに記念状を見せてくれました。コロナ禍で区の敬老会も中止になって、お祝い事は一切無いだろうなと思っていたところ、翠風園さんでお祝いして戴いたそうで、とても嬉しく思いました。有り難うございました」と、お話を聞かせて戴きました。

また、地域包括のケアマネージャー様からは、「ご自宅に訪問すると、翠風園さんからもらった記念状を、皆様が見せて下さいます。あれほど素晴らしい記念状を、職員さんが手作りしているとは驚きました。とても喜ばれていましたよ」と教えて戴きました。

利用者様へのお祝いと感謝の気持ちをこめて、毎年職員皆で製作しておりますが、今年は特に多くの皆様から御礼の言葉を頂戴しました。有り難うございました。



あとがき

お陰様で第十四号を発行する事が出来ました。今回は、新型コロナウイルスに関する内容をまとめて制作致しました。

未知のウイルス発生当初は、「自分達が感染しない、させない」という重圧で、職員全員が緊張感に包まれていました。

そのような中、翠風園では関係者の方々からの暖かい応援と、ウイルスに関する情報が寄せられました。

現場で陣頭指揮をとっていた施設長が、「今日はこんな嬉しい事があったんですよ」と、ことあるごととに何人もの職員に話して下さり、その熱い思いが職員にも伝播し、一体感が増して行きました。

そして、翠風園には利用者様の笑顔と、職員の笑顔で満ち溢れている光景が広がっていて、コロナ禍においては当たり前ではないこの状況に、自ずと感謝が湧いて参りました。

先日、施設長の気持ちを聞き取る機会がありました。その際「これからも利用者様と共に、愛と感謝の空間を育てて翠風園を守り抜く！」という、並々ならぬ覚悟を話して下さい、一職員として胸が熱くなりました。

介護の仕事は、一瞬たりとも気が抜けませんが、現在も集中して仕事ができます事は、本当に有り難い事だと感じています。

今後も状況は変化していくと思われませんが、どんなことにも感謝の種を見つける努力をし、自分の身の周りに広げて行きたいと思えます。

ひかり通信編集部 捧 彰子